

北海道短期大学

45年の歴史に幕

専修大学北海道短期大学の閉学式が6月8日、同短大体育館で行われ、45年間の歴史に幕を閉じた。



閉学式

閉学式には、工藤正義学長、元専修短大教職員、全国各地から集まった卒業生など短大関係者が参列した。また、学校法人専修大学からは日高義博理事長、坂田隆石専修大学学長をはじめ法人役員が参列。高橋幹夫美唄市長、内馬場克康美唄市議会議長、岸本邦宏美唄商工会議所会頭・専修大学北海道短期大学後援会長、李東陽中国黒竜江農業職業技術学院長、甘竹秀雄校友会会長、藤井英昭美唄市副市長、鈴木俊幸専修大学北海道連合校友会会長、英伴専修大学北海道短期大学同窓会長らが来賓として参列し、出席者は480人になった。

日高理事長は「卒業生が、これからますます社会と連携をとり、専修人としての誇りと自信を持って、社会で活躍していただくことを強く祈念します」とあいさつ。続いて工藤学長は「45年という長きにわたり、

た45年間の教育は間違っていないかった。開学のときに、農業機械科の助手として採用された私の目から見た専修短大の歴史の珠玉のエピソードをご紹介します」と振り返った。

皆様方のご支援により1万2068人の卒業生を世に送り出しました。今日は、ご来賓・地域の皆様・卒業生がこんなに大勢お集まりいただきとてもうれしく思います。我々が専修短大で行ってきた

短大のあゆみを紹介。英同窓会長の発声で乾杯のあと、卒業生の木下忠行さん(昭55農業機械)は「北短卒業後、野球部の監督を務め、実験・実習の指導も行い、学生たちから『木下先生』と呼ばれるようになった。私たちが卒業生の心の中には、一生この北短は残るといふことを忘れないでいた

閉学式

レセプション

レセプションは、美唄ホテルスエヒロに会場を移し、日高理事長、甘竹校友会長のあいさつと、工藤学長が映像を交えて専修

“北短魂”持ち続ける



▲ 恩師を囲んで和やかに歓談

(昭48農業土木)による「北短ありがとう」エールが元教職員へ送られ、田中貞美専修大学北海道短期大学名誉教授の方歳三唱で盛会のうちを終了した。

卒業生・元教職員からは、あちらこちらで記念撮影や思い出話を語り合いました。1万2068人の卒業生を送り出してきた専修大学北海道短期大学の閉学を惜しむ声が多く聞かれた。



▲ 学生時代を懐かしむ卒業生



▶ 工藤学長(左)から日高理事長へ校旗を返納



▲ 開学当時の風景。左上は現在のキャンパスを歩く出席者たち

◆専修大学北海道短期大学 45年のあゆみ◆

年 度	主な年譜
1968(昭43)	専修大学美唄農工短期大学として開学 農業機械科、農業土木科、農業経営科の3学科編成
1973(昭48)	校名を専修大学北海道短期大学に改称 土木科、商科、農業機械科に改組
1976(昭51)	専攻科(土木専攻、農業機械専攻)設置
1977(昭52)	開学10年記念式典挙行(6/18)
1980(昭55)	第1回中国人留学生受け入れ
1983(昭58)	造園林学科、経済科の2学科を増設し5学科体制
1987(昭62)	創立20年記念式典挙行(9/16)
1992(平4)	専攻科(造園林学専攻)設置
1998(平10)	創立30周年記念式典挙行(7/18)
2002(平14)	黒竜江農業職業技術学院との交流覚書の調印式(10/16)
2003(平15)	学科名称変更 土木科→環境システム科/農業機械科→農業科学科/造園林学科→園芸緑地科
2006(平18)	環境システム科・農業科学科・園芸緑地科→みどりの総合科学科へ、商科・経済科→商経社会総合科学科へ学科改組
2011(平23)	みどりの総合科学科・商経社会総合科学科 学生募集停止
2012(平24)	第44回卒業式を挙行(2/23)
2013(平25)	閉学式・閉学レセプション挙行(6/8)

うれしい卒業生の活躍

えたことが一番の思い出です。学生が卒業して、農業の道で活躍していることをうれしく思います。また、有機無農薬栽培の農場運営では、学生と教職員が協力したこと



成田 保三郎さん (元みどりの総合科学科教授)

地域に元気をくれた

き地域にいつも語りかけてきた大学」「元気をくれた大学」「大学の新しい顔」を築いてくれたという印象が残っています。閉学は大変残念ですが、卒業生のますますのご活躍を期待します。



久保田 和男さん (美唄市柔道連盟監督)

在職中の専門は土壌肥料。農業後継者が将来希望を持てるような農業について全般と、作物栽培技術を教

地域や市民とともに成長し発展してきた大学であり、市民向けの公開講座や、体育館を開放していただ